

## 会 議 録

- 1 会議名  
平成30年度第1回 吹上・釜蓋遺跡調査指導委員会
- 2 議題（公開・非公開の別）  
議事1 釜蓋遺跡の調査について（公開）
- 3 開催日時  
平成30年7月9日（月）午前10時00分から12時00分
- 4 開催場所  
釜蓋遺跡ガイダンス体験学習室、釜蓋遺跡発掘調査現場
- 5 傍聴人の数  
1人
- 6 非公開の理由  
なし
- 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）
  - ・委員 : 岡村道雄（委員長）、橋本博文（副委員長）、五百川裕、卜部厚志、黒野弘靖、小島幸雄、広瀬和雄
  - ・オブザーバー : 滝沢規朗（新潟県教育庁文化行政課副参事）、木島勉（糸魚川市教育委員会課長補佐）、佐藤慎（妙高市教育委員会主査）
  - ・事務局 : 文化行政課 中西課長、新保上席学芸員、羽深主任学芸員、湯尾主任、溝内主任、今井学芸員
- 8 発言の内容  
別紙のとおり
- 9 問合せ先  
教育委員会文化行政課 TEL : 025-545-9269  
E-mail : [bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp](mailto:bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp)
- 10 その他  
別途の会議資料も併せてご覧ください。

平成 30 年度第 1 回 吹上・釜蓋遺跡調査指導委員会

平成 30 年 7 月 9 日（月）午前 10 時 00 分～12 時 00 分  
釜蓋遺跡ガイダンス 体験学習室

1 中央部①の調査について

○SI1152 と周辺の遺構について

（委員からの意見）

- ・ SI1152 の年代を明らかにするために、サブトレンチでもいいので一部調査して出土遺物を確認すべきである。
- ・ 遺跡全体の出土遺物を見ると、非常に近接した期間のものであり、環濠から一定量の遺物が出土した以外では、遺構から新旧関係がわかるほど遺物が出土していない。そのため SI1152 の出土遺物で新旧関係が明らかになる可能性は低い。
- ・ SI1152 周辺の遺構で最も新しい 1560（旧河道か）を調査してほしい。1560 がいつの時期のものなのかは、遺跡の下限を考える上で非常に重要である。
- ・ 1560 の調査で植物遺体が出土すれば、当時の環境を知る資料になるのではないか。

○SI1568 について

（委員からの意見）

- ・ 土層に見られる白色粘土層は細かな粘土である。洪水で覆われたのではないか。サンプリングして確認してみたい。（委員会終了後、試料採取）
- ・ SI1568 の中央部付近で見られた砂利は、泥岩や風化した砂岩である。関川などの大きな川で見られる火山岩が確認できないため、青田川などの小さな川から運ばれたものと考えられる。自然に堆積したというよりは、理由は不明だが何かに使おうとして混ざったものではないか。（委員会終了後、試料採取）
- ・ 大型の竪穴建物の性格が日常的な場であったのか、リーダーの屋敷等だったのかを確認するために、徹底的に調査すべきではないか。（他の委員からも同意を得た。）
- ・ SI1568 の 1/2 の調査だけでは竪穴建物の持つ意味がわからないのではないか。
- ・ 長軸 10m 級の大型は SI83 を調査しているが、12m 級の特大型（SI1152・SI1568）の調査は行われていない。SI1568 を徹底的に調査して、炉の有無等も確認した方がよい。
- ・ 建物の構造は、柱穴等の情報がわからないと判断できない。

2 中央部②の調査について

（委員からの意見）

- ・ 竪穴状の遺構が検出された場合、「竪穴かもしれない」という段階で調査を終わらせずに、調査区を拡張して規模・平面形を確定してほしい。
- ・ 予算・日程をふまえて、調査区の拡張が後半の調査でできるのか検討してほしい。
- ・ 中央部②の地点が遺跡の中心の位置にあたる。遺構を精査して、必要があれば秋の調査で拡張して遺構の規模・平面形を確定すべきである。

### 3 竪穴建物跡の調査方法について

- ・ 委員の同意を得た。

### 4 その他の調査について

#### ○中央部①の掘立柱建物について

(委員からの意見)

- ・ 南側の柱の覆土が不明瞭なのが気になる。また竪穴建物に比べて小さく貧弱であるという印象を受けた。周辺に掘立柱建物が群在するかどうかも気になる。
- ・ 独立棟持柱建物は100例ほど確認されている。弥生時代には側柱建物が多く、古墳時代に総柱建物が多くなる。今回の例は最小クラスと考えられる。また、側柱建物であり、時期的には符合している。
- ・ 竪穴建物(SI1568)に近すぎるのが気になる。
- ・ 竪穴建物(SI1568)と同時期でないと思う。
- ・ 以前、同様の掘立柱建物が確認されたときは、この種の建物は中世のものと考えていた。しかし平成27年度に調査した竪穴建物(SI1455)で打ち込みの柱が確認されたことから、当該期の建物かどうか検討する必要がある。

#### ○中央部①について

(委員からの意見)

- ・ 建物を囲むような施設がないかどうか気になる。3C-23グリッドの2条の溝が塀になるのではないか。
- ・ 同時期でなくても、竪穴建物と溝の向きが揃っていることが気になる。

#### ○その他

(委員からの意見)

- ・ 遺跡全体の遺構の配置であったり、竪穴建物も規模、形、柱の配置だけでなく深さ、周溝などの属性もまとめないと、遺跡の様相がわからない。遺跡全体をまとめないと総括報告書も書けない。
- ・ 洪水だけでなく、地震痕跡も考慮に入れて調査すべき。
- ・ 遺構の検出面でいいので、元の地形の高さを等高線で示してみてもどうか。環濠内部の排水をどうしていたのかが気になる。
- ・ 竪穴建物が3パターンあるということだが、全て住居でよいのか疑問である。
- ・ 総括報告書では、斐太遺跡も含めた斐太遺跡群としての課題もふれてほしい。